

平成28年9月27日

高知リハビリテーション学院  
学院長 大倉 三洋 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 森澤 英世

## 学校関係者評価委員会報告

平成27年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 山本 孝利（特定医療法人防治会 事務次長）
- ② 元吉 明（高知リハビリテーション学院同窓会 前会長）
- ③ 羽方 法男（高知リハビリテーション学院後援会 会長）
- ④ 森澤 英世（土佐市商工会前会長 土佐市在住）
- ⑤ 森 暁（高知中学高等学校 校長）
- ⑥ 江渕土佐生（土佐市議会議員）

#### 学校関係者

大倉 三洋（学院長）  
池田 敏宏（事務長）  
濱田 和範（教務部長）  
清岡 学（学生部長）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

第1回委員会 平成28年 6月24日（会場 高知リハビリテーション学院 会議室）  
第2回委員会 平成28年 9月23日（会場 高知リハビリテーション学院 会議室）

#### 3 学校関係者委員会報告

別紙のとおり

## I 各評価項目について

### 1 教育理念・目的・人材育成像

#### 【現状と課題】

学校法人高知学園の建学の精神である「人に信頼される人物の育成」を中心に本学院の教育理念としては、「至誠心」「先進・進取の気性」を掲げており、その内容はホームページ、入学案内、学生便覧等さまざまな手段で学校法人関係者はもとより、教職員・学生・保護者・その他学院外へも公表されている。

本学院は、心身の機能回復や障害などを解決していく医学的リハビリテーションに関する高度で専門的な知識と技能を養成していく理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の養成機関として、私学では全国の魁となる歴史と伝統を有している。

先進・進取の気概をもって至誠心や人間性を育む実践教育にあたるとともに地域とともに歩む学校づくりに力を注いできており、地元自治体はもとより、県とも連携した医療・保健・福祉活動を積極的に展開してきている。

#### 【意見】

引き続き地元自治体との連携を深め、地域医療、地域福祉を中心とした地域の活性化や地方創世に貢献できるよう努力して行ってほしい。また、社会のニーズに対応できる質の高い教育に積極的に取り組まれ、有為な人材の輩出を図ってほしい。

### 2 学校運営

#### 【現状と課題】

理事会・評議員で決定された経営方針や事業計画のもとでの学校経営、また、運営面では予算に基づき適正な対応がなされている。就業規定をはじめ必要な諸規定は完備されている。

学校運営のための組織と意思決定等についても整備された諸規定のもと教授会を中心にした円滑な対応が図られている。各種制度や規定については必要に応じ、点検等も行われている。

教育活動に関してはホームページをはじめ積極的に情報公開されており、教務システムなど業務の効率化を図る情報システム化も進んでいる。

#### 【意見】

更なる学校情報の提供に向け、工夫をして行ってほしい。

### 3 教育活動

#### (1) 目標の設定

##### 【現状と課題】

学院の教育目標及び重点目標、指定規則等に基づいたカリキュラム編成を実施している。また、授業科目要綱に目標を載せ、学生に周知させている。課題としては自分で考え行動できる自律した専門職となれるよう教育体制の見直しと強化が必要である。

##### 【意見】

現場が求める実践力のある人材を育成するために企業との連携をさらに深める取り組みやシステムを検討していただきたい。

#### (2) 教育方法・評価等

##### 【現状と課題】

教育課程の編成などに際しては組織的に対応しており、外部の施設関係者や関係団体等の連携にも努めている。特にカリキュラムは各授業間を体系的かつ効率的に作成するよう努めおり、基礎的内容を反復学習し、知識を定着させるよう努めている。

##### 【意見】

入学早期より具体的職業イメージを持たせ学習意欲を高める機会を設ける必要がある。

#### (3) 成績評価・単位認定等

##### 【現状と課題】

学生便覧および授業科目要綱等に成績評価基準および単位互換の基準を記載し明確にしている。単位互換については新入生が入学時に提出した成績証明書をもとに基礎分野の科目を教授会で決定している。

##### 【意見】

今後も明確な成績評価を実施に努めてほしい。

(4) 資格・免許の取得の指導体制

【現状と課題】

国家試験対策委員会を中心に教員による模擬試験、国家試験対策、個別指導を行っている。国家試験不合格者に対しては無料で学校設備の利用や指導を行っている。

【意見】

全員合格を目指して引き続き国家試験の指導の充実について努めてほしい。

(5) 教員・教員組織

【現状と課題】

教務、臨床、評価など分野ごとに規程に基づく組織（委員会）を置き分担と責任を明確にした対応を図っている。学科内・教員間の連携はもとより、兼任教員と共同で授業なども推進している。実習には複数教員が関与し、またオムニバス形式の導入も含め、専任教員間で協業している。学生の学習面などに関する情報の共有化、問題点の抽出、解決策の検討、また、兼任教員と授業について協議を深めていくことなど今後、更に煮詰めていくことが求められる。

【意見】

教員の資質向上等を図っていくなど積極的に研修等に参加し、能力を高めるよう常に努めてほしい。また、さらなる情報の共有化等を行い、学力面に問題のある学生への指導方法を複数教員で対応していくなど、更なる充実に向け取り組んでほしい。

## 4 学修成果

### (1) 就職率

#### 【現状と課題】

就職率は開学以来 100%を維持している。学生に対しては個別相談や就職指導を重ねて行うとともに、就職状況については教職員全体で情報共有している。また、就職試験に関するデータの収集をおこない、今後の就職試験対策の資料としている。現在も求人件数が就職希望者の数十倍といった状況にはあるが今後、県内の求人数の減少が予測されるため求人数得の多い県外への就職を学生に啓発し推進していく必要がある。

#### 【意見】

今後、就職活動も厳しくなることが予想されることから、卒業生のネットワークを生かし新たな職域の求人確保など就職指導の強化などに取組んでほしい。

### (2) 資格・免許の取得率

#### 【現状と課題】

国家試験全員合格を目指し、学習教材、校内・全国模擬試験などを含め様々な対策を講じているが、平成 27 年度は 3 学科共に全国平均値を下回る結果となっている。グループ学習を中心に様々な取り組みが行われ、特に成績下位者に対しては個別指導など集中的な介入も行われているが、受験日までに試験対策が間に合わない学生も存在するため、能動的に学習に取り組んでいく必要がある。1 年次より基礎学力の向上や予習・復習などの学習習慣の体得なども含め早期からの介入が大切である。

#### 【意見】

年々増加傾向にある基礎学力の低い学生に対する向上対策が挙げられる。また、不合格者に対しては、引き続き、国家試験に合格するまで支援プログラムを用意し徹底したケアを実施してほしい。

### (3) 卒業生の社会的評価

#### 【現状と課題】

数多くの卒業生が関連領域で教員を務めるなど社会的な活躍をしている。卒業後も出身学科の教員などを中心に相談を受け助言や支援している。今後も卒業生の対外的な評価を把握し、社会貢献できる人材の育成に努めていくことが望まれる。

#### 【意見】

特記事項なし

## 5 学生支援

### 【現状と課題】

就職支援については就職相談室に専任職員を配置し、学生個別にきめ細かい支援体制が築かれている。

健康支援については保健室やカウンセラーを配置し、対応している。

学習支援については学習支援室を設置し、相談体制を整備するとともに、保護者面談会を実施し学校と家庭での教育の一体化を目指した活動を行っている。

クラブ活動も推奨しており、予算面での支援も行っている。

また、奨学金制度や土佐市の就学支援金制度を活用し、経済的支援も行っている。

同窓会活動については、現在全国のブロック化と名簿管理システムが導入され効率化が図られている。

同一法人の高校とは連携した職業教育（フェローシップ）も継続しており、多くの生徒がキャリア教育を受けている。

### 【意見】

特記事項なし

## 6 教育環境

### (1) 施設・設備等

#### 【現状と課題】

養成施設として必要な機器や設備、備品については規則を遵守した配備が図られている。さらに、最先端の教育機材の導入を図られるなど、医療現場や生活介護支援実態に応じた最新鋭の教育環境が整備されている。

蔵書約3万冊を整える図書館棟では、情報教育を推進していくためのパソコン教室も整備されている。

こうした教育に必要な校地はすべて地元自治体が整備、提供してくれているが、体育教科の実施やクラブ活動のための運動場の確保が課題となっている。

#### 【意見】

今後とも地元自治体と連携した教育環境整備に努めてほしい。

### (2) 学外実習、インターンシップ等

#### 【現状と課題】

実習施設とは連携した教育を行っており、学生の状況・実績の把握も行われている。卒業生が実習指導者となって、実習生の指導に当たるというケースが増え、学校の考え方を理解しながら実習指導をしてくれる施設が増えてきている。

全国の実習施設に呼びかけ毎年定期的に行われている臨床実習指導者連絡協議会では、実習指導者を対象とした研修講座を開催している。これは、臨床実習指導をより充実させるために、実習施設指導者の教育指導力向上と、実習施設と学校との共通理解を深めることを目的としている。

#### 【意見】

人の人生や生命に関わる業務に携わるだけに、その業務に取り組む心構えの如何が厳しく問われる。専門性を高めるだけでなく引き続き人間教育にも力を入れた取り組みを行ってほしい。

## 7 学生の募集と受入れ

### (1) 【現状と課題】

学生募集については、月例としている高校訪問、年間5回開催しているオープンキャンパス、また、高校への出前授業や高校教員対象のオープンキャンパスなど様々な対応を行っている。

特に高校訪問については力点が置かれており、専任の職員を配置するとともに教員ともども精力的な活動を行っている。なかでも県内唯一の言語療法学科については重点的にアピールを行っている。

また、志願者のほとんどが訪れているオープンキャンパスでは、本年度より興味のある内容を生徒が選ぶキャンパスツアーを取り入れ、来校者の高校卒業生である本校在生による各学科説明を行うなど、細やかな対応がなされている。

さらにラインを活用し、タイムリーに学校の状況が発信できるシステムが構築されている。

### 【意見】

少子化に伴い今後さらに募集活動が重要になってくるため、引き続き重点的な対応に努めてほしい。

県内唯一の言語療法学科については、高齢化の進展などを踏まえ、高校の教員や生徒へのアピールの方法について更に工夫をしてほしい

### (2) 入学選考

#### 【現状と課題】

入学選考については、学力試験・小論文・調査書・面接などのそれぞれの結果を数値化し、各学科内で検討され運営委員会、教授会に諮り、様々な角度から慎重に、公正に決定している。

#### 【意見】

学力面もさることながら、医療従事者を目指す者として、人間性や資質の見極めも肝要であるため、引き続き多面的な角度からの選考に努めてほしい。

## 8 財 務

### 【現状と課題】

安定した財務基盤のもとでの学校運営がなされており、極めて健全な体質が維持されている。これは源となる学納金収入が一定基準以上で常に確保されていることから、事業活動収支が安定していることによるものである。

昨年度の経常収支差額比率は31%と極めて高い健全性が示され、また、この中での教育研究費比率は23%となっており、必要な教育投資も確保されている。

会計監査も定期的に行われており、財務情報はホームページで公開されている。

### 【意見】

特記事項なし

## 9 法令等の遵守

### 【現状と課題】

関係法令及び学内規程については、その制定や改正などに応じ、教授会などにおいて周知、徹底されている。学生に対しては、便覧により全員に諸規定の周知を図るとともに、ホームルーム等機会あるごとに、その、遵守について説諭されている。

個人情報についても保護委員会規程が定められ、そのもとでの適切な対応が図られている。

学校評価については、自己点検・評価委員会規程のもと、実施組織を置いての対応がなされており、報告書が公表されている。

### 【意見】

これら法令等の遵守は学校運営の根幹であるので、引き続き厳正な対応に努めてほしい。

## 10 社会貢献・地域貢献

### 【現状と課題】

地元自治体や自治会などと連携し、高齢者や学童の健康増進を図る出前講座や体力測定といった専門性を活かした取り組みを行っている。

3万冊の蔵書を有する図書館は地域に開放されている。

また学校施設は地域にも開放しており、経済団体などとの交流も行っている。

病院・施設におけるボランティア活動には精力的に参加しており、また、地域自治会の清掃ボランティアなどにも積極的に参加している。

### 【意見】

県内の自治体と連携した教育訓練なども活発に行っており引き続き、貢献に努めていってほしい。

## 11 国際交流

### 【現状と課題】

留学生の受け入れは現在は行われていないが、国際化の進展等を踏まえ、対応についても検討していくことが望まれる。

### 【意見】

留学生の受け入れを検討して欲しい。